

サツマイモ「ベにはるか」栽培暦



「ベにはるか」の特長

- ◆いも数が多く、形状の揃いが良い
- ◆多収で上物率が高い
- ◆主要病害虫に抵抗性を持つ
- ◆貯蔵性がよい
- ◆しっとり甘く、食味がよい

◆栽培暦

作業月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
育苗	△		ポット育苗苗		種いも育苗		△					
本圃				◆ 施肥・マルチ張り ◆	○ 植付け ○			食葉害虫防除		□ 収穫 □		
貯蔵							■					
主な作業		ポット育苗苗	種いも育苗	マルチ張り	植付け		防除 アブラムシ	かん水 (乾燥時)	防除 ナカジロシタバ	収穫・貯蔵	出荷調製	

1 育苗

(ポット育苗)

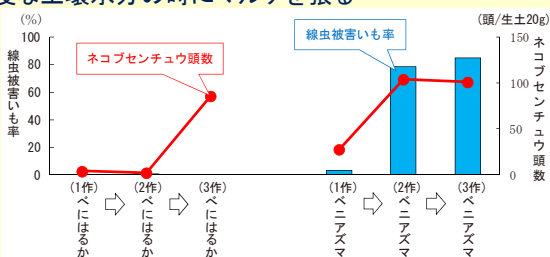
- ◆つる割病や立枯病のない育苗ハウスを利用する
- ◆基肥は、窒素成分で20~25g/m²を施用する
- ◆葉が小さく、葉色が薄れた場合、窒素成分5g/m²追肥をする
- ◆地温は「ベニアズマ」より約5℃高めの昼間30~35℃、夜間20℃以上とする
- ◆床土が乾かないように、こまめにかん水する
- ◆育苗終了後は、太陽熱消毒などで病害防除を行う

(種いも育苗)

- ◆温度管理等は慣行の「ベニアズマ」に準じて行う

2 圃場準備

- ◆圃場の選定
 - ・水はけのよい圃場に作付ける
 - ・線虫被害は少ないが、線虫の増殖を避けるため、長期にわたって連作をしない
- ◆基肥は、10a当たり窒素成分で0kg(野菜栽培跡地)~6kg(窒素肥沃度の低い圃場)を目安とする
- ◆堆肥は完熟したものを施用する
- ◆適度な土壤水分の時にマルチを張る



3 植付け

- ◆4月25日から6月15日に植え付ける
- ◆植え傷みを避けるため、晴天日は夕方に植える
- ◆株間は30~45cmとする(畦幅90cm)
- ◆疎植の場合、水平植えや船底植えにすると、いもの形状揃いが良くなる



4 生育中の管理、収穫

- ◆食葉害虫の発生始めに薬剤防除する(特に8月下旬以降のナカジロシタバ、ハスモンヨトウ)
- ◆夏季に土壤乾燥した場合、かん水する
- ◆在圃期間130日以上で収穫する
- ◆草勢の強い圃場のいもは、ヤラピン(白い乳液)による汚損が多いため、トラクターけん引の掘取り機を用いるか、草勢が弱まってから収穫する

5 貯蔵、出荷調製

- ◆収穫後30日以上貯蔵したいものを出荷する
- ◆貯蔵適温は13~16℃

(早期出荷)

- ◆早期出荷の場合、洗浄時の皮むけ軽減と糖化促進のため、やや低温(11℃)で貯蔵する

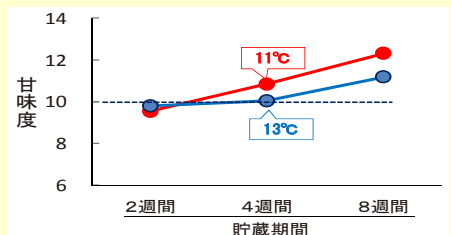


図 貯蔵温度と「ベにはるか」焼きいもの甘味度
※甘味度:ショ糖や麦芽糖など各糖の甘味程度を加味した値